堀川ゼミ
募集要項
２００７

Seminar Prospectus

Horikawa Seminar

Dept. of Sociology
Hosei University

Prof. Horikawa at Eliot House, Harvard College, with the House necktie. Photo © 2005 by YMH.

“Say it with data（裏付けのある主張をしよう）——堀川ゼミの精神はこの一言に見事に表現されています。それは「現場を歩き，足で考える」ということです。”

私達の目指すもの

堀川ゼミへの招待

堀川ゼミとは，一体何をする場所で，何を目指しているのでしょうか。ここでは簡潔に説明しましょう。

“Say it with data.”（裏付けのある主張をしよう）——堀川ゼミの精神はこの一言に見事に表現されています。それは「現場を歩き，足で考える」ということです。他人の意見の受け売りやテレビで見聞きしたことをなぞるだけでなく，自らの足と頭，眼を使って考えに考え抜き，自分の言葉を紡ぎだすことこそ，私達，堀川ゼミの目指すものです。

そのために，私達は何を学ぶのでしょうか。端的にいえば，それは「方法」を学ぶということです。試験範囲の英文を暗記しただけの人は，範囲外の英文を一人で読み解くことはできません。範囲内の「正解」を知っているだけで，読む「方法」を知らないからです。しかし，英文法と辞書の使い方を知っていれば，一人で未知の英文も（すらすらとはいかなくとも）読み解いてゆくことができます。初見の英文であっても動じることはありません。なぜなら，「方法」を知っているから。

ですから，堀川ゼミでは，具体的な社会問題を研究する過程を通じて，社会を見る「方法」を学ぶことを目指します。卒業して20年経っても古びないもの，それこそ「方法」です。

ゼミ生は各自の選んだテーマで卒業論文を執筆し，高度な知識のみならず，この「方法」を身に付けてゆきます。そして，堀川ゼミでの卒論指導の原則は「自己ベスト更新への挑戦を支援する」です。「もう，これ以上書けない。これで卒論は完成ということにしよう」と言う学生に「待った」をかけ，限界と思った地点を超えてもうひとがんばりさせること——そんな「自己ベスト更新」を支援することが，ゼミでの教員の仕事だと考えています。

自らの限界を自分で打ち破って，想像もできなかった広い視野がパッと開けた瞬間，きっと君は気がつくはずです。あきらめずに走りきった者だけに許される勝利の美酒が本当にあるということを。この一文は，その美酒への招待状に他なりません。

Prof. Horikawa at Sever Hall, Harvard University. Photo © 2005 by Timothy S. George.

“堀川ゼミでの指導の原則は「自己ベスト更新」です。「もう，これ以上書けない。これで卒論は完成だ」と言う学生の「自己ベスト更新」を支援すること。これがゼミでの教員の仕事だと思います。”

2007年度（第6期生）
募集要領

堀川ゼミの概要――応募前に知っておきたい事柄

通常のゼミは，おおよそ下記のように運営されます。今年度の履修者との相談で決まる部分もありますが，基本線は変わりません。

開講時間　水曜5限（於ゼミ室）です。ただし，社会調査実習と連動して運営されますので，演習のほかに実習の履修が推奨されています。

ゼミの基本テーマ　基本的には都市問題か環境問題に興味のある学生を対象とします。キーワードでいえば，「社会学，都市問題，環境問題，歴史的環境，公害，社会調査，フィールドワーク」といったところとなるでしょう。具体例でいえば，都市問題系では「都市社会学，都市計画，再開発，景観問題，町並み保存，まちづくり，アメニティ，都市空間，住宅問題」など，環境問題系ならば「環境社会学，公害問題，足尾銅山鉱毒事件，水俣病事件，公害汚染地域の再生，環境保護運動，リサイクル運動」などです。

指導内容　基本的には，下記の3分野において指導がなされます：

(1) 研究に必要な技術の学習（パソコン，データベース，ノートテイキング等）
(2) 基礎的な文献の読破（精読と多読，英語文献への挑戦）
(3) ゼミ論文の執筆（年度の終わりの修了論文〔ゼミ論〕と卒業論文〔卒論〕）

演習（ゼミ）の進め方　課題文献を全員が熟読してきたうえで，レポーター1名が内容を簡潔に要約します。内容を過不足無く理解し，重要な論点を端的に指摘します。それを受けてコメンテーター1名が文献の持つ可能性や限界，問題点や疑問点，批判点をあげて議論の口火を切ります。その後は教員も交えて縦横無尽に議論する――これが毎週の演習の進め方です（後期からはスケッチャー1名が当日の議論内容の概要をまとめてプリントにして翌

週に配付，議論の中身を再確認します）。通常，16:50に開始して，18:40 ごろまで行います。また，重要な雑誌論文のデータベースを分担して作成し，ゼミのホームページ上で公開する「ゼミ・プロジェクト」も行います。

サブゼミ　正規の演習（ゼミ）とは別に，ゼミ生による「サブゼミ」も，堀川ゼミの活動の重要な柱のひとつです。サブゼミは，教員抜きのゼミです。ここで議論の続きをしたり，お互いの素朴な疑問を出しあったり，あるいはゼミ文献の予習を一緒にやったり。サブゼミ運営の仕方は，学生同士で話し合って決定します。年度によっては，T.A. (Teaching Assistant) の大学院生が相談役として参加してくれる場合もあります。

演習のモットー　堀川演習のモットーは“Say it with data.”（「裏付けのある主張をしよう」「データで語ろう」）です。これはアメリカの有名な統計入門書の書名 *Say it with Figures*（邦訳『数字で語る』）に由来しています。データと言い換えてあるのは，インタビューなどの質的データを積極的に採用しているゼミだからです。いすれにせよ，机上の空論ではなく，地に足をつけた議論を目指している，という意味です。

演習の年次予定　大枠では，下記のような年間計画によって運営されます：

【I ゼミ】　前期　社会学の基礎文献の講読
　　夏休　ゼミ合宿（2007-08 年度は小樽市）
　　後期　各自のゼミ論構想発表
【II ゼミ】　前期　専門英語論文の読破
　　夏休　現地調査実習合宿（2008 年度は小樽市）
　　後期　各自のゼミ論構想発表
【III ゼミ】　前期　各自が卒論研究
　　夏休　ゼミ合宿
　　後期　卒論構想発表と集中討議
　　1 月中旬　卒論提出（4 年生）
　　1 月下旬　ゼミ修了論文提出（2-3 年生）
　　2 月初旬　卒論公開審査（於エッグドーム）

演習の行事　行事はそう多くはありませんが，基本線は「メリハリのあるゼミ生活」です。「ゼミはきっちり，楽しくやるときは，思いっきり楽しく」の精神です。

・新歓コンパ（4 月中旬から下旬にかけて）
・サブゼミ（週一回）
・夏合宿（2 泊 3 日，現地調査の場合は一週間）
・卒論公開審査（卒論公開口頭試問）
・追い出しコンパ（公開審査の直後；おしゃれをして皆でレストランで本式のディナーを食べて語らいます）

卒業生の進路

1997 年度に始まった堀川ゼミでは，現在までに 5 期のゼミ生がこのキャンパスを巣立っていきました。主な進路を列挙すれば以下のようになります：

・株式会社東急コミュニティー
・株式会社システックス
・環境コンサルタント会社
・全日空システム企画株式会社
・凸版印刷株式会社
・株式会社 大京管理
・株式会社 丸善
・財団職員
・航空測量会社
・弁護士事務所
・法政大学大学院政策科学研究科博士課程（経済社会学）
・オクラホマ州立大学大学院博士課程（環境社会学）
・法政大学大学院社会学研究科博士課程（環境社会学），など

演習の「売り」

(1) 論文の個別指導を受けることができます。
(2) 教員がフィールドワークを得意としているので，自分でフィールドワークをしてみたい（あるいは，フィールドワークをもとにしてルポルタージュ／新聞記事を書いてみたい）と思っている人に対して具体的なアドバイスをすることができます。
(3) 関連する学問領域が複数にわたるため，受講者の今後の学習，とりわけ卒論に参考になる事項が学べます。
(4) 大学生として必要な基礎技術がキチッと学習できます。
(5) 程よい規模のゼミで，仲間のサポート・叱咤激励のなかで勉強をすすめることができ，深い人間関係が構築可能です。
(6) サブゼミや合宿の企画・運営は，大幅に学生に任されていますので，自分たちの希望を反映させることが可能です。
(7) 過去3名が大学院に進学したことが示すように，楽しい中にも高いレヴェルの議論が可能です。また，院入試対策への助言が得られます。
(8) ゼミのホームページで重要な学術文献の総目録検索データベースを作成して公開していますので，そのプロジェクトに参加できます。現在公開している『環境社会学研究』（環境社会学会刊行）などの総目録は，世界中で堀川ゼミのサイトにしか存在しておらず，とても便利と好評です。
(9) 本学部開講科目「社会調査実習」と連動して運営されますので，現場での調査をともに体験し，深くテーマや手法について学ぶことができます。

† * Sab Horikawa † Satoshi Morihisa ('00)

†

*

†

*

†

Horikawa Seminar

Dept. of Sociology
Hosei University

2007年度（第6期生）募集要領

募集人数　6～12名程度

選考方法　受講希望者は4月6日（金）13時00分に堀川研究室（学部高層棟11階・1110号室）に来室してください（時間厳守）。応募多数の場合は，「レポート」（A4判で2～4頁程度を，各自，あらかじめまとめてきてください）と「面接」（20～30分）をもとに選考し，後日，結果を2階事務課前の掲示板に掲示します。

受講生への希望　受講条件として，下記の7点を学生諸君に求めたいと思います：

(1) 正規の時間以外に週1回実施するサブゼミに参加できること
(2) きちんと毎回出席し，熱意をもって課題等を実行できること
(3) 課題以外にも，自分で主体的に文献を探して読んでくること
(4) ゼミ開講6年目という条件をむしろプラスの条件と考えられるパイオニア精神にあふれていること
(5) 自分にとって揺るがせにできない疑問を考えてみたいと思っていること
(6) 積極的に「ゼミ・プロジェクト」に参加すること
(7) 「教員から教えてもらう」態度ではなく，自分から積極的に学ぼうとすること

ゼミ公式サイト　http://www.mt.tama.hosei.ac.jp/~sab/

担当教員・堀川三郎のプロフィール

・“Say it with data.” をモットーに，学生のころから一人で「現場」を歩き，自分の目と足で調査することを続けてきました。1984年早春，北海道小樽市で小樽運河の保存問題に触れて以来，23年にわたって調査を継続中。古い町並み（歴史的環境）を残すことは「好事家の手慰み」ではなく，人間と環境との関係について，何か大切なことを語りかけているのではないか。こうした問題意識が，私の研究の原点です。小樽での調査を続けながら，他の町並み保存の現場（小樽，近江八幡，妻籠，伊根，川越，飫肥，鞆ノ浦，Boston，Tampa，St. Louis，Veneziaなど）や公害被害地（水俣や足尾など）を歩き回るうちに，研究することの楽しさや苦しさといったものが少し見えてきたように思います。
・（著者略歴風に書けば）1997年から，法政大学社会学部教員。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了，専門は環境社会学，都市社会学，社会調査史。社会学部では，「環境社会学」「社会調査」「社会調査実習」，「演習」「外書講読〔英語〕」などを担当。2004年4月～2006年3月まで，ハーヴァード大学ライシャワー研究所客員研究員として研究・教育に従事した。

堀川ゼミ募集要項 2007: Seminar Prospectus
2007 年 3 月 9 日発行
編集・発行＝堀川三郎

•

〒 194-0298　東京都町田市相原町 4342
法政大学社会学部 堀川研究室

写真およびデザイン＝堀川三郎
Cover photo: Annenberg Hall, Harvard University
(by Sab Horikawa, 2006)

Copyright © 2007 by Sab Horikawa.
All rights reserved.

•